

胸のエックス線検査で影があると連絡が入ったら・・・(結核疑いの場合)

1 受診までの準備

- 本人に（結核の疑いがあり）病院で検査をうける必要がある。検査結果によっては、
 - ① 複数回受診する必要がある
 - ② 入院になる可能性もある と説明
- 健康保険証の有無の確認
- 本人にマスクをつけるよう説明
- 受診先の内科（呼吸器内科）を決める
→胸部 CT 検査が可能な病院を選択する
- 通訳のできる付きそい人（医療用語もわかる）を調整し、受診の方法を説明



- 持ち物の確認：
 - 健康保険証、お金（1万円程度）
 - 紹介状、胸部エックス線検査のデータ〔必要時〕
- 検査結果が出るまで出席停止、アルバイト停止が必要と説明
- ルームメイトがいたら、部屋の窓を開けて換気を十分に行うよう説明
- 受診時の付きそい人に N95 マスクを準備する
- 車で受診する場合は、窓を開けてよく換気する

2 受診

- 初診受付で手続き後、受診予定の診療科へ移動。紹介状を渡し、医師の診察、検査をうける

《検査内容》（病院により異なります）

CT 検査：
治療が必要かどうかを調べる



痰の検査：
人にうつす危険があるかを調べる



4 治療終了まで

- 治療途中で薬を飲むのを飲んだり飲まなかったり、やめたりすると、薬がきかない結核菌（耐性菌）になってしまう可能性がある。
毎日忘れず薬を飲むことが大切と説明
- 保健福祉センターの保健師が、治療終了まで薬の内服を支援することを説明
⇒毎日薬を飲んでいるか保健師、学校職員が服薬確認（DOTS）する

DOTS：直接薬を飲んでいるところを確認、または薬殻の数を確認し、服薬手帳に記録

- 治療途中で母国に帰ることになったら、帰国後も治療を継続できるように早めに相談するよう説明

医療通訳派遣

結核患者が、結核という病気や治療・制度・服薬・支援などについて理解を深め不安を解消するため、必要時医療通訳を派遣します。

《通訳言語》英語、中国語、韓国語、タイ語、ポルトガル語、フィリピン語（タガログ語）、ベトナム語など

3 結核と診断されたら

～結核は毎日しっかり薬を飲めば治せる病気です～

① 人にうつす可能性がある場合 = 入院が必要な場合

- 入院中の注意点などを説明
- 入院期間：2～3か月（病状により延長もあり）
その間は通学もアルバイトも不可
- 退院：喀痰検査の結果により人にうつす危険性が消失した後

健康保険 70%

公費負担 30%

保険診療分は結核治療以外の分も該当

- 入院中は、保健福祉センターへの申請を病院が行うこともできます

退院

② 人にうつす可能性が無い場合 = 外来で治療が可能

- 〔本人への説明内容〕
- 日本での外来受診、治療薬の受け取り方
- 処方された薬は本人に合わせて種類と量を決めている。他の人と分けないように
- 毎日忘れずに、薬を飲み続けることが大切
- 薬を飲み続けることができるように、みんなで支援する（不安を軽減）
- 登校とアルバイトが可能かどうかは保健福祉センターに相談する

健康保険 70%

公費負担 25%
5%
自己負担

【対象】
抗結核薬、胸部エックス線検査、CT検査、
喀痰検査、副作用を調べる検査
【対象外】初診料、再診料、抗結核薬以外

- 申請日からの適応となります。**診断されたその日の内に**保健福祉センターに本人が申請にいかなければなりません
【申請時に必要なもの】
• 結核患者医療費公費負担申請書（医師記入分）
• 胸部エックス線検査のデータ

結核とは

結核菌によっておこる感染症です。

感染のしくみ（空気感染）

- 主に肺結核患者の咳などのしぶきと共に出る結核菌を吸いこむことで感染します。

感染とは

- 肺の奥まで吸いこまれた結核菌が、肺胞に定着した状態。症状はなく、人にはうつしません。

発病とは

- 体の免疫力・抵抗力の低下により結核菌が活動している状態。
- 主な症状：咳、痰、微熱、胸痛、体重減少など
- 結核菌に感染しても発病するのは 1～2 割

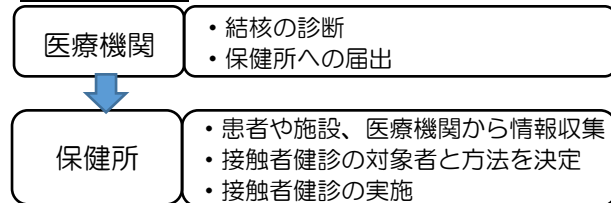
特徴

- 徐々に病状が進行し、排菌するようになります。
- 感染だけの状態や発病の初期で排菌していないときは人にうつすことはありません。

接触者健診について

患者からの感染や発病の有無などを調べ、結核感染拡大を防止します。

基本的な流れ



主な検査

- 血液検査：結核感染の有無を調べる
 - 胸部エックス線検査：結核発病の有無を調べる
- ※急いで検査をすると正確な結果が得られないことがあります。適切な時期を保健所に確認しましょう。

学校における健康管理

●症状がある時は早期に受診を

受診時期が遅れると、周りの人に感染させる恐れがあります。生徒の健康管理に留意し、早めの受診を促してください。

●免疫を維持できる生活を

「バランスの良い食事」「適度な運動」
 「十分な睡眠」「禁煙」「免疫が下がる
 病気の治療と管理」が大切



●1年に1回は胸部エックス線検査を

①日本語学校健診【事前申込必要・無料】

《対象》

- ① 専修学校又は各種学校に規定されていない日本語学校の学生
- ② 専修学校又は各種学校に規定されている日本語学校に在籍している就業年限が2年以上で2年次以降の学生
- ③ 日本語学校に在籍している修業年限が1年未満の学生

健診で発見された結核患者のうち、入国後1年未満の割合が88.7%（2011～2018年）でした。
 入国後早めの健診は早期発見に役立ちます。

②保健福祉センターでの結核健診（予約不要）

- 日時は各区センターにご確認ください。
 - 人数が多い場合は事前にご相談ください。
- ⇒精密検査を受けるよう言われた場合は、すみやかに医療機関を受診させてください（中面参照）

【日本語学校健診の申込、ほかお問合せ先】

大阪市保健所 感染症対策課（結核グループ）
 〒545-0051
 大阪市阿倍野区旭町 1-2-7-1000
 Tel：06-6647-0653

日本語学校における “結核”基礎知識

大阪市の外国生まれ結核患者は増加傾向にあります。特に日本語学校在籍者の割合が増加し、2018年には外国生まれの結核患者の約半数を占めています。

外国生まれの結核患者においては、言葉の理解が不十分であることや、医療制度や文化・習慣の違い、経済的・社会的な状況において、保健・医療へのアクセスが困難な場合があります。

結核の早期発見と確実な治療のための支援、感染拡大防止の対策が必要となります。

